



福祉用具給付制度と図書館について

平井 玲子 議員



福祉用具給付制度

質問 日常生活用具給付事業の対象となる品目には、

どのようなものがあるのか、現状をお尋ねします。

答 視覚障がい者用は、音声式、いわゆるしゃべる体温計、しゃべる体重計など、また、聴覚障がい者用は、バイブレーター式目覚まし時計などがあります。

質問 音声付き血圧計を日常生活用具に加えてもらいたいという声はないか、現状をお尋ねします。

答 本市では、日常生活用具給付事業ではなく、自

助具等購入費補助事業において補助しています。
質問 身体障害者手帳を持

つまでに至らない難聴者への助成制度はありますか。
答 現在のところ、補助制度はありません。

要望 高齢期難聴者に対する補聴器購入費の助成を要望します。

図書館について



©KOMEITO

質問 書籍除菌機を導入する考えはありますか。

答 導入事例や情報を集めるなど、研究していきたいと考えています。

要望 国の地方創生臨時交付金が活用できると考えます。書籍除菌機の導入については要望とします。

質問 電子書籍サービスを導入する考えはありますか。

答 費用対効果、先行事例の情報収集などに努め、研究を続けていきたいと考えています。

要望 電子書籍サービスは新しい生活様式に合った図書館サービスです。地方創生臨時交付金を充てることできます。導入については要望とします。

質問 2年前に質問、要望しました読書通帳について、その後の経過をお尋ねします。

答 図書館や学校図書館をクラウド化してネットワークを結んだ後の施策として、引き続き研究していきたいと考えています。



教育行政（不登校児童生徒に対する）の課題と取組について

松本 隆志 議員



教育大綱の基本的目的

質問 教育大綱の基本的目的に込められた思いや課題について伺います。

答 核家族化やSNS普及など、環境が大きく変化するなか、家庭や地域の教育力により、子どもたちを健全に育むことが求められています。親の学ぶ機会

充実や子どもたちが地域社会へ参加しやすい環境づくり、ネット上のトラブルから子どもたちを守る取組が課題で、学校・地域・家庭の連携強化が重要です。

不登校児童生徒への取組

質問 不登校児童生徒数が増加するなか、心に不安を抱える子どもへの学校での

取組や、学校以外での居場所づくりについて伺います。

答 子どもを遠ざけている個々の原因に応じ、教育相談部会を中心に支援策を考え、関係職員でチームをつくり対応しています。また、学校以外の新たな学び場として、ふれあい学級やROCKEET事業、民間のフリースクールと連携し、個別対応が可能な体制づくりを進めています。

質問 地域の教育力を生かした魅力ある学校運営とし

て、コミュニティ・スクールの取組について伺います。

答 来年度までに、全小・中学校に導入を進めます。目標やビジョンを保護者や地域住民と共有し、地域と一体となり、子どもたちを育む取組を推進しています。

質問 家庭での教育力を高める取組について伺います。

答 子育てに係る各種講座や相談事業、すくすくサポート隊の運営、また、県と連携し、親の学びプログラム等を実施しています。

質問 中学校を卒業後、進学や就職をしない青少年に対するアプローチや居場所づくりについて伺います。

答 個人情報保護に関わることから、積極的にアプローチはせず、家庭や本人から連絡を受けての対応が実情です。群馬県では自立支援、学習相談等の支援充実が図られており、連携して対応しています。

要望 相談を待つだけでなく、直接的サポートのできる仕組み構築を要望します。